令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　藤松　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語，算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に 関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語，算数）の結果

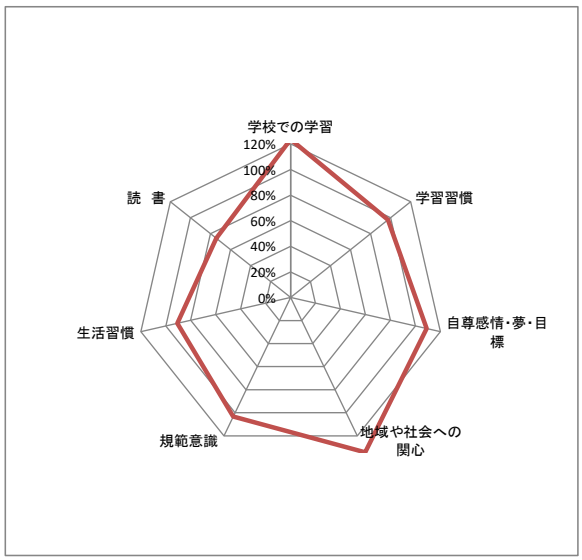
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「言葉の特徴や使い方に関する事項」や、「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関する問題の正答率は全国平均を上回っているが、「読むこと」に関する問題の正答率は全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」	
	努力が必要な問題	「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」	

算数	全体的な傾向や特徴など	「測定」や「変化と関係」に関する問題の正答率は全国平均を上回っているが、「数と計算」「図形」「データの活用」に関する問題の正答率は全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する」	
	努力が必要な問題	「複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述する」「データを二次元の表に分類整理する」「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する」	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・『学校での学習』において、「主体的な問題解決の学習への取組」や「話し合い活動」に対して肯定的な回答をする児童が多かった。主題研究を中心としたこれまでの成果が出ていると考える。
・『読書』において、平日に「全くしない」という児童はいなかったが、「1時間以上読書をしている」という児童の割合は全国平均より低かった。コロナ禍の影響で、休み時間、図書室での自由閲覧を中止していたことなどが、読書時間に影響したものと考える。
・『生活習慣』において、「朝食を毎日食べること」や、「同じ時刻に起きること」に関する項目が低かった。また、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という項目は低かったが、1日当たりの使用時間が1時間未満と答えた児童の割合は全国平均より高かった。
・『地域や社会への関心』が高く、これまで地域と深い関わりの中で学んできた成果が出ていると考える。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・国語科の読み物教材を扱う単元では、導入時に「何のために読むのか」という明確な目的意識がもてるような単元設定を行うことで、児童が主体的に文章に関わる学習を学年に応じて丁寧に行う。そして、単元を展開する中で物語の主題や筆者の意図を捉える学習を積み重ねることで、児童の読む力の向上を図るようにする。
・算数科では、児童が数や式、図形、データを自分で分析したり、交流する中で説明したりする学習を重点的に行うことで活用力を身に付けることができるようにする。
・他教科でも、資料や事実を基にして考えたり、意見を交流したりして児童が自分の考えをより確かなものにする学習を重点的に行うようにする。
・今後も主題研究を基にして、児童がより主体的に学習に取り組む学習づくりを行うようにする。その際、「『学びの質を高める』授業づくり5つのポイント」も活用して、教師の授業力向上を図るようにする。
・朝の学習時間は、月曜「全校読書」、水曜「よみかきタイム」、金曜「コグトレタイム」として、継続して徹底して取り組むようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・児童が規則正しい生活を送ることができるよう、これまでの「藤松小生活がんばりカード」の取組を継続するとともに、学期1回生活習慣を見直す機会を設ける。
・学校通信や学校ホームページ、家庭教育学級やその他地域会議の機会を生かして、生活習慣の改善についての啓発を継続して行い、家庭と学校が一緒になって取り組むようにする。
・携帯電話やスマートフォンやコンピュータの使い方については、親と子の規範意識教育の機会を生かして啓発を行うようにする。